

「家がいいね」 第164号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2018.1.12



あなたは独りではない

成果の出ないツライ仕事を続けている時、見通しがきかない治療を続ける時、世界の中には自分一人だけしか居ないように思えるかもしれませんが、見守る人は必ず居ます。目もかけてもらえないように思えても、その声はあなたの耳のすぐ近くまで届いているでしょう。あなたが包まれているものに気が付くのは、きつと有限の時間の中です。

西国三十三カ所巡

りを再開しました。車を走らせても一日三カ所がせいぜい、昔の人の健脚と遍路道の苦勞を思い浮かべました。一人行くと決めても寂しい。お接待を受けながら歩く足は二本です。同行二人（どうぎようににん）のお連れは弘法大師空海と言われます。どのような姿や形で現れるかは分かりません。何の気配を感じるかは、自分の身体を使う時にしか分からないと言われますね。



豊かな死

ガワンデと

いう外科医の書かれた本を紹介します。

インドで医師

だった父母が

米国へ移住し、彼が生まれました。救急外来や集中治療室で命を救う一方で、最期まで治療を手放せない人の声に聴き入るライターでもあります。

病む人の本当の願いに、現代の医療体制は向き合っているのか。医療現場で働く彼の感性と言葉に驚きつつ読了しました。この本に脊髄腫瘍と格闘する父を自宅で看取り、遺灰を遠くガンジス川に撒く記載があります。自然の死に戻るまで、家族も共に医療との折り合いを何度も体験しています。

医療は、飛行機の旅より不確実なもの

著者の近著「予期せぬ瞬間」では、生殺与奪を決める医師の人間関係に触れフライトチームよりも確認不足と指摘します。超高度化した医療ではミスは一人では防げない。判断も多くの選択肢の中から瞬時に行わなければならない。患者家族にそれを選ばせるのはフェアではありません。私は「共に考え勇気づける」相談者としての医療者の役割が強調される時代への移行を心より願います。



いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可



時は2017年から、2018年へ。超満月が闇を照らす。